

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0191400316		
法人名	株式会社 秀		
事業所名	グループホーム ふるさと		
所在地	函館市富岡町1-54-17		
自己評価作成日	平成29年9月19日	評価結果市町村受理日	平成30年2月27日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd=0191400316-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1番6号 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成30年2月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

各利用者が自分らしく過ごせる様、そして互いに思いやり楽しく過ごせる様支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

一人ひとりの生活歴や力を活かしながら、花植えや野菜の苗植え等の役割、楽しみごとや気分転換等の支援をしている。
事業所主催の夏祭りや七夕祭りでは、近隣の子供たちや住民が参加して交流の機会を設けたり、敬老会では、地元の中学校の吹奏楽部の生徒たちが慰問で吹奏楽の演奏会開催や獅子舞ボランティアの協力を得て、楽しみごとへの支援や地域の人々との交流をしている。
また、一人ひとりのその日の希望に沿って外気浴や散歩、買い物等で戸外に出かけられるようにしている。また、季節に応じて紅葉やお花見ドライブ、啄木公園で桜鑑賞など普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、出かけられるように支援している。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目		取組の成果 ↓該当するものに○印		項目		取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどつかんでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は勿論、各入居者に対して尊厳を保ち生活出来る様努めている	事業所独自の理念をつくり、日常業務やユニット会議等を通じて職員間で共有し、その理念を実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の学校との交流、子供達との過ごせる時間、また季節の行事を継続出来る様努める	事業所主催の夏祭りや七夕祭りでは、近隣の子供たちや住民が参加して交流の機会を設けたり、地元の中学校の吹奏楽部の生徒たちが慰問で吹奏楽の演奏会開催など地域の人々と交流をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	公共の場へ外出する事により、たとえ意思疎通が出来なくとも日常生活を送れるという事を理解して頂ける様努めている		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では入居者の状態報告や認知症に関する話題をもとに、参加者全員と意見交換している	運営推進会議では、事業所の取り組み状況や感染症対策など具体的内容について話し合い、そこでの意見をサービス向上に活かせるよう努めている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃より、電子通信機器等を使ったり、緊急時は直接足を運んで常に協力関係を築くよう努めている。	市担当者や包括支援センターとは、日常業務を通じて相談や助言を得るなど協力関係を築くよう努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間帯のみ防犯上玄関施錠、身体拘束にならないケアに繋がらない様、病院受診やユニット会議を開催し入居者の状態把握に努めている。	日常業務やユニット会議で指定基準における禁止の対象となる具体的な行為を話し合い、正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	講習会に参加したり、他施設よりの情報等を得、防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	様々な研修会に可能な限り出席し、報告会を開き、それらを必要としている入居者に活用できる様支援している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約内容については特に変更はなく、皆様の理解を得ており、家族の都合による解約にも理解を示している		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常生活においての意見や要望、家族訪問時の対応等継続し、運営に反映させるよう努めている	本人・家族等が意見や苦情等を言い表せるように玄関入り口に苦情受付箱を設置している。また、そこでの意見や要望等を運営に反映できるよう努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月ユニット会議等開き職員の意見や発案を話し合う時間を設け、その結果を反映出来るよう様心掛けている	ユニット会議や日常業務等を通じて、職員の意見や要望、提案を聞く機会を設け、そこでの意見やアイデア等を運営に反映できるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年次休暇も取り入れ、賃金改正し賞与等支給と毎年見直しされている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各職員の力量を把握し、新人職員に対しては個別指導等実施したり、職員同士が共に学び合う事で自身の向上に繋がっていく様指導している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	他グループホーム、又、包括や介護サービス業者等との勉強会を開き、サービス向上に努めている		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が困っている事・不安な事等に耳を傾けながら、本人が安心出来る関係づくりに努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者の家族が困っている事、不安に思っている事に耳を傾けながら、安心して頂ける様努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族等が、必要としている支援を見極め、不安がない日常生活を送れる様努めている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護される側、介護する側の立場におかず、共に暮らしていく者同士として関係を築いていけるよう努めている		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と共に本人を支えていく関係づくりを築いていける様努めている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族との恒例の外出・外食、地域の恒例行事参加が途切れない様努めている	家族と一緒にのお墓参りへの支援や地域の行事参加などを通じて、馴染みの人や場所との関係が途切れないように努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	各利用者の特徴を把握し、一人ひとりが孤立せずに支え合える様な支援に繋がる努めている		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転居・退去されたとしても、必要に応じ残された家族等の相談や支援に努めている		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で一人ひとりの思いや、希望・意向の把握に努め、何を困難としているのか会話中より聞きとり、家族からの意向にも添える様努めている	家族からの情報や生活歴の把握で、一人ひとりの意向や要望を職員間で話し合い、本人本位に検討している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴や暮らし方・生活環境等、これまでの日常生活を維持していく様努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各利用者の一日の過ごし方、体調管理・心身状態等把握できる様努めている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人がより良く暮らす為に本人や家族の意見・病院寄りの指示や助言を元にモニタリングをし、介護計画を作成していく様努めている	本人、家族の意見や要望、医師からの指導や助言、モニタリングやユニット会議を通じて職員の見えやアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの結果、気づきを個別に記録に落とし、職員間で今後の実践に対する取り組み方に活かせるよう努めている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じ変化していくニーズに対応し、サービス内容の追加・変更などの柔軟な支援が出来る様取り組んでいる		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、戸外での出来る活動を援助し楽しみを持ち、安全で豊かな暮らしが出来る様に支援している		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な訪問診療・訪問看護の他、体調変化によって臨時住診の依頼等、各事業所との信頼関係を築きながら医療をうけられる様支援している	受診は、本人や家族の希望するかかりつけ医となっている。また、往診や訪問看護の利用、通院への支援や日常の健康管理で適切な医療を受けられるように支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者との関わりの中でとらえた情報や気づきを医療機関と常に連携をとりあい、必要時アドバイスを受けて、受診など出来る様支援している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際、安心して治療出来る様に、ご本人との面会、また、病院関係者との情報交換や今後についても助言を求め、よりよい関係づくりを行えるよう努めている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期の在り方について、ご本人とご家族様との間で話は決まっている事が多く、事業所で出来る事を十分説明し、医療関係者を交えた方針を決め、対策に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族と話し合い、事業所ができることを十分に説明しながら、指針を職員間で共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時に備えて、急変時の連絡網の作成・対応マニュアル作成し、すべての職員が応急手当や初期対応が出来、医療との連携もとれる様体制を整えている		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は年2回、火災訓練、または地震・水害などの訓練を入居者は参加で行い、近隣の住民の方にも周知して頂き地域との協力体制を築いている	地域の住民の協力を得て、昼夜を想定した年2回の火災避難訓練や自然災害(地震・水害等)を想定した訓練を実施している。	

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各利用者の人格を尊重し、誇りを傷つけない様な対応・言葉掛けを心掛けている	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉がないように職員間に周知に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で本人が思いや希望を表したりされる時は、自己決定出来る様な言葉掛けをしていく様努める		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	症状がすすむ中、一人ひとりのその日のペースに合わせた生活が過ごせる様支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	各利用者・家族からの要望も加え、その人らしい身だしなみが出来るよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しめるよう、形状・味付け等変えたりし、片づけなども個々の力を活かしながら職員と一緒に出来る様努めている	一人ひとりの好みや力に合わせて職員と一緒に食事の準備や後片付け等をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日を通じ食べる量・バランス・水分量を確保し、一人ひとりの状態や力に合わせて、トロミや刻み食等、提供出来る様支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床・就寝時以外でも、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアを声掛け・見守り・介助で行い清潔保持に努めている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	歩行困難な利用者は時間を見てトイレ誘導・又は失禁されていないか確認をしている。自立されている利用者についても、排泄の失敗をしない様見守りし、自立への支援を行っている	一人ひとりの力や排泄パターンを把握して、声かけや誘導等の工夫でトイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物の工夫や運動等、個々に応じた予防に取り組んでおり、医療とも相談している		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	一人ひとりのタイミングに合わせて入浴を楽しめる様、利用者の状態を把握し希望に添える様努めている	一人ひとりの希望やタイミングに合わせて柔軟な入浴を支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各利用者の生活習慣やその時々状況に応じて休息したり、リビングにいて落ち着く方は見守りながら過ごして頂ける様支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者が使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、急変時は医療とも確認を取り合っている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴を振り返り、それに近い生活が出来る様活、役割分担や季節毎の行事で、気分転換出来る様支援している		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は散歩したり、普段行けない様な場所へは車でドライブ等して、戸外に出かけられるような機会を設け、楽しみを持てる様支援している	一人ひとりのその日の希望に沿って外気浴や散歩、買い物等で戸外に出かけられるようにしている。また、季節に応じて紅葉やお花見ドライブ、啄木公園で桜鑑賞など普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、出かけられるように支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は家族が管理されているが、お金の大切さは理解されている。日常品に関しては、本人より希望時、家族の同意を得て、買物代行を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や葉書など、本人より訴え時いつでも出せる様用意している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースは、来客者にも不快感を与えないよう配慮し、季節感も取り入れ居心地よく過ごせるよう工夫に努めている。	共用空間は、季節毎の飾りつけなどで生活感や季節感を採り入れて、居心地良く過ごせるよう工夫している。また、利用者にとって、気になる臭いや音の大きさ、光の強さは感じられない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースは、いつでも誰でも自由に思い思いに過ごせるように工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人や家族と相談し、使い慣れたものや好みの物を置き、本人が日々気持ちよく生活しやすいよう工夫している。	居室には、使い慣れた家具や身の回りの品が持ち込まれ、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部各所に何をやる所か、わかりやすく絵や文字で掲示をし、安全で出来るだけ自立した生活が送れる様に工夫している。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム ふるさと

作成日: 平成 30年 2月 26日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組内容	目標達成に要する期間
1	38	常に人材不足の為、職員側の都合を優先にする傾向がなおきらない	利用者を優先に出来る限り一人ひとりの希望に添えるよう努力する	職員の補充と、各職員が心身ともにゆとりを持ったサービスが出来る様取り組んでいく	12ヶ月
2	41	食事など利用者の体重増を気にし、それに伴い新たな疾病の発病等を考え過ぎ、提供量を減らす事	各利用者の出来る範囲内での運動等を取り組んでいきたい	各利用者の健康確認、残存機能、好む事等を把握し取り組んでいく	12ヶ月
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入してください。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加してください。